



2026年6月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジャータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は朝の最低気温が5度以下の日もあり、秋から冬へ季節が進んでいます。原油高に伴うガソリン価格の値上げなど消費者物価指数が上がり始めました。チリ国内の物流コストはホルムズ海峡封鎖後に約30%値上がりをしています。原油は主にブラジル等の中南米から輸入しており、化学製品は米国から輸入していますので、チリ国内で燃料の供給不足、懸念は現時点では発生していません。サンチアゴ中心部は地下鉄が交通をカバーしていますが、地方の交通は車、バスが国民の移動手段なので、エネルギー価格高騰は今後のGDPにも影響を与えそうです。3月に就任したカスト大統領の支持率は約35%で引き続き低迷をしています。チリ銅価格は更に強くなっており、6.1-6.3ドル台まで急騰していますので、今年のチリ政府の歳入は大幅に増えそうです。為替市場はドルに対して800ペソ台後半で落ち着いていますが、株式市場は1ヶ月で約10%の値下がりをしています。

2. 世界市況

中近東市場はホルムズ海峡封鎖が解除した後にバルク配船を再開したい方針です。6月にコンテナ配船を検討しましたが、チリから中近東への船運賃が急騰しており、実現はしませんでした。中近東向け生産枠はチリ国内、南米諸国、韓国で振替をしており各製材工場で減産はしていません。今後イラン情勢が米国と終結すれば中近東からの買い意欲は強くなることが予想されます。米国向け内装部材は金利高により住宅着工、やりフォーム需要がまだ弱く需要は静かです。また中国向け家具、玩具、ホームセンター用部材も中国経済の低迷が続いており回復はまだ先のようなようです。ラジャータ丸太の木取りで梱包用グリーン材（心材）の販売は今後も伸びそうな世界市況ですが、集成材用乾燥材（辺材）の販売は米国と中国の市況がメインになります。今後の心材と辺材の木取りと販売のバランスにより、1本の丸太価値を最大限出せるか重要になそうです。

3. 日本市場

a) 配船スケジュール

アラウコ3月コンテナ配船(1番船)は5月中旬より各港へ到着しております。

5月コンテナ配船(2番船)は5月第3週から6月第1週までに現地を出港しますの
で、日本各港へは予定通り7月下旬以降に入港する予定です。

アラウコ7月配船(3番船)は引き続きコンテナ配船を継続していきます。

7月中旬から3週間の現地出港を予定しており、日本入港は9月中旬以降を予定して
います。今年のコンテナ配船スケジュールはアラウコが年間5回、CMPC年間が6回に
なります。アラウコは来年以降も現地コストが合えば、バルク配船に戻したい意向です
がエネルギー市場の現状を見ると厳しい現実となり、しばらくはコンテナ配船を継続
していくことになりそうです。

b) 梱包市況

4-5月の梱包需要は3月より約10-20%減少した模様です。米国とイラン情勢により
輸出メーカーが高い輸送コストを避けるために輸出の延期や部品の数量が揃わずに
輸出を延期するなど、当初予定していた輸出梱包計画の見直しをするケースが発生し
ています。ホルムズ海峡封鎖の解除もまだ不透明で、今後の輸出梱包の見通しに慎重な
見方している梱包市況です。しかし、各港の港頭在庫に過剰感はなく、引き続き適正な
在庫水準で推移をしています。

原油高に伴うバンカーオイルの値上げ、現地トラック運賃、製材コストの上昇により、
今年1-3月の配船と比べて7-9月の配船は製材価格で約8%のコスト増加になります。
チリ各社は3番船のコンテナ配船で約半分の3%値上げを実施しました。

3番船が入港してくる9月以降は輸入コストが上昇しますので、各社10月以降は
約2000円の値上げをしていく方針です。NZ製材業者もNZラジアータ丸太のコスト
が上昇中で製材の値上げを実施しています。

梱包に使われる副資材(ビニール、プラスチック等)の入荷遅れ、プラスチックパレッ
トから木製パレットへレンタルパレット業者が再び木製パレットの使用を増やす検討
をするなど、原油から精製されるナフサ不足が木材業界にも影響を与えています。

梱包向けベトナムLVLの入荷遅れ、コスト上昇に伴う代替品として、製材に移行する
市況は出ておりません。

今後米国とイランの戦闘が終結すると、中近東諸国向け復興事業として下級材の需要
が急激に増えることが予想されます。チリ製材、NZ製材の市況が大きく変化すること
があるかもしれません。

以 上